

## 人吉高等学校五木分校 平成 27 年度学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>
<p>ア 本校の綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、全職員一体となって愛情と信頼を基調とした教育を実践し、心豊かで調和のとれた、社会に貢献できる人間の育成を図る。</p> <p>イ 豊かな自然環境の中で、豊かな人間性と健康な体を育み、自信と誇りをもった澁刺とした生徒の育成を図る。</p> <p>ウ 小規模校としての特長を最大限に生かし、生徒一人一人の個性を伸ばすとともに、特色ある学校づくりを実践する。</p>

<b>2 本年度の重点目標</b>
<p>教育スローガン「一人一人が輝く分校生！」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 基礎学力の充実</li> <li>2 生徒指導の充実</li> <li>3 進路指導の充実</li> <li>4 多様な生徒への対応</li> <li>5 地域に根ざした特色ある取組の推進</li> </ol>

<b>3 自己評価総括表</b>						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	信頼される学校づくり	広報活動の充実	分校ニュースを職員が輪番で担当して年11回発行し、学校行事等での生徒の頑張りを情報発信する。	毎月分校ニュースを保護者、地域機関、出身中及び学校評議員に配付し、ホームページに掲載する。ホームページを毎月更新し内容を充実させる。	B	期限内に関係機関に配付し、分校の情報発信源として機能した。ホームページへの掲載もできたが、それ以外の内容を充実させることはできなかった。
		ボランティア活動の充実	学期に1～2回、年5回、全校生徒・職員で地域貢献のための環境美化活動を行う。	定期考査最終日及び夏休みに、五木分校周辺の公共の場所の清掃・美化活動を行う。	B	悪天候により一回実施できなかったが、おおむね計画通り環境美化活動を行うことができた。地域貢献のため今後も継続する。
		五木秀麗会との連携強化	秀麗会総会・報告会の出席率100%を目指す。保護者との良好な協力関係を構築する。	全保護者の協力による秀麗会活動の充実を図る。担任と保護者間で密な連絡、相談等を行い、良好な協力関係を保つ。	A	本年度より、保護者全員に秀麗会役員になって頂いた。そのことにより、秀麗会総会・報告会の出席率100%を達成するとともに秀麗会活動の活性化に繋がった。
		地域に密着した教育活動の充実	五木小・五木中との合同事業の充実	第3回保・小・中・高合同大運動会の円滑な運営を行う。中・高交流、合同行事を充実させる。	五木村保育所・小学校・中学校及び各校種PTAと密接な連絡体制と連携を図る。救急講習、防災教育等の中学校との合同開催を実施する。	A

						を実施し交流を深め、進行等の役割を担うことで生徒の自主性の育成につながった。
		地域中学校との連携強化及び入学生徒数の確保	毎月1回担当職員が中学校を訪問する。 平成28年度入学人数を10名に近づける。	各中学校を分担して職員が担当し、連絡体制を強化する。 学校説明会や体験入学を充実させる。	B	毎月の中学校訪問も定着し、中学校卒業生の状況報告もできた。体験入学では、本校生の活動の様子が引率者の先生方に感銘を与えていた。高校説明会も、ICTを活用して効果的にアピールすることができた。
		五木村関係機関や団体との連携と行事等への協力	年10週のあいさつ運動を実施する。 交通安全運動等の五木村行事へ参加し、分校でしか体験できない教育活動を展開する。	五木村で行われる交通安全運動、各種祭、駅伝大会等に生徒会を中心に積極的に参加する。 地域との良好な協力関係を構築する。	A	あいさつ運動は、生徒会を中心に主体的な活動ができた。村主催の交通安全運動、福祉祭、駅伝大会に積極的に参加できた。
学力向上	基礎学力の定着	学校設定科目「ステップアップ」の充実	生徒間の競争意識の高揚を図り、全員が6段階以上の昇級を目指す。	全学年を3段階の習熟度別グループに分けTTによるきめの細かい指導を行う。	B	小・中学校の段階からの学び直しができ、かつ、習熟度別に展開しているので、基礎学力の定着に有効であった。自ら学ぼうとする意欲の個人差が大きく、学習意欲の喚起が課題である。
	授業の充実	わかる授業の構築 授業時間の確保 研究授業の実施と研究会・研修会への参加	生徒の学力に応じた授業の工夫と個別指導を充実させる。 授業の自習をゼロにする。 各教科の職員が必ず年1回以上研究授業を実施する。	各定期考査前に学習会を実施する。 出張時の授業変更を確実に行う。 研究授業後の合評会の充実を図る。 各種研修会へ積極的に参加する。	B	定期考査前の学習会や個人指導が充実し、学期成績での欠点はゼロであった。授業の自習もゼロであり、全教職員が研究授業を実施した。各教科の担当者は1人であるため、教科指導力向上のためには校外での研修の機会が必要である。
キャリア教育	キャリア教育の充実	「総合的な学習の時間」における系統的な進路学習と体験学習の充実	外部講師による進路学習を積極的に取り入れる。 自然体験学習を生徒に必要とコミュニケーション能力、思考力、創造力を身につけさせる。	進学、就職への講話や、社会生活に向けた学習を行う。 体験学習では学校全体で取り組み、生徒が主体性を持って取り組むような工夫を行う。	A	外部講師による面接の受け方や履歴書の書き方の指導、社会生活に向けての心構え等の講話を行った。体験学習でも、生徒一人一人が意欲的に取り組むことができた。
	個に応じた進路指	各自の進路希望に応じ	進路希望の100%達成を目指す	個別面談を適宜実施し、個に応じた課外		全職員で協力して、個に応じた課外指導

	導	た個別指導の実施	す。	や面接指導を行う。関係諸機関との連携を図りながら個別指導と対応を充実させる。	A	や面接指導を行った。また、保健部の協力で、支援を必要とする生徒の進路も決定することができた。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚	基本的な生活習慣の確立	自らの力で生活態度を向上させる態度を養う。	学習・生活の記録を毎日提出させる。保護者と連絡を密に行う。	C	学習・生活の記録は、1年生徒全員からの提出を実現できなかったが、生徒の状況把握に役立った。
		規範意識の高揚	生徒会行事や学級活動等での団体行動や月例集会講話を通して、規律ある行動ができるような集団をつくる。問題行動、トラブル等を未然に防止する態度を養う。	交通安全、整容や言葉遣い、マナー等の向上に取り組む。アンケート調査、生徒の日常観察等により、全職員で生徒の状況を把握し、トラブル等の未然防止に努める。	B	整容面での軽微な違反や、級友間での些細なトラブルはあったが、個別に指導することで規範意識の喚起はできた。問題行動等無く、特別指導0件を達成することができた。
	生徒の主体的活動の充実	生徒会活動の充実と部活動の活性化	全生徒が生徒会活動に参加する。部活動への加入率を100%とする。	全生徒が、生徒会の係を分担し活動を行う。生徒会による生徒総会、月例集会の運営を充実させる。部活動で、各種競技会等への積極的な参加を行う。	A	学校行事等では、進んで企画・運営上の生徒会の仕事に取り組む姿が増え、高く評価ができる。部活動加入率は目標の100%を達成することができた。また、各種大会にも積極的に参加することができた。
人権教育の推進	個々の生徒に応じた適切な指導	生徒一人一人の状況把握と柔軟な対応	各学期1回以上、職員研修(生徒理解、特別支援等)を実施する。毎週の運営委員会で生徒の状況報告と実態把握を行う。	外部の専門家との連携を密にし、積極的な活用を図る。生徒理解のための資料を作成し、全職員が生徒個々の特性と現在の状況を理解して指導に当たる。	A	毎学期、支援会議を開催し、生徒の就職支援につなぐことができた。また、スクールカウンセラーによる特性を持つ生徒への具体的支援についての職員研修を実施し、生徒への理解や対応を深めることができた。
		生徒と教職員、生徒同士の望ましい人間関係の構築	3年間を見通した人権教育LHRを計画的に実施する。各行事を通して、自尊感情の定着とともにお互いを認め合うことができる生徒を育成する。	学年毎にテーマを設定してわかりやすい授業を行う。学校行事では、生徒全員がお互いに協力してつくりあげる取組を重視して計画させる。職員も参加して支援する。	B	保小中高合同運動会や文化祭、ボランティア活動など、全学年や異校種との交流活動の機会を設定し、各所で互いを思いやり協調して活動する姿がみられた。
	「命を大切にしている心」を育む指導の充実	命を大切にしている心、他を思いやる態度の育成	指導プログラムを作成し、各学期「命を大切にしている心」を育む授業やLHRを実施	各教科科目の授業で「命を大切にしている心」についての授業を行い、職員も参観する。	B	各教科でも命を大切にしている心を育むという観点で授業を実施し、特別活動も含め学校全体として取り

			する。 月例集会講話等で思いやる心や強い心を醸成する。	LHR、総合的な学習の時間や月例集会等を活用し、日頃から、「思いやる心」について触れた話等を行う。		組んだ。 定例の月例集会は計画通り実施できた。思いやりの心や強い心を育む職員の講話が毎回実施でき、大変良かった。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針の着実な推進	いじめを許さない心を育む指導の充実	いじめ発生「0」を目指す。 いじめにつながる学校全体の雰囲気を作る。	全体指導と個別面談等を行い、いじめの未然防止に努める。 月例集会で生活態度等について注意を喚起する。	A	生徒からの相談の窓口を複数設置したことで、生徒の悩みや困り感に迅速に対応し、解消することができた。アンケート回答で、いじめ件数は「0」であった。
		生徒の状況把握と迅速な指導体制の構築	相談窓口の周知を行う。 日頃の生徒間の行動観察と情報共有を図る。 年3回の心のアンケートを実施する。 外部の専門家を活用したいじめ問題対策委員会を毎学期、年3回実施する。 いじめ防止基本方針を職員に周知する。	相談窓口は、合格者説明会・入学式・1学期始業式・五木秀麗会総会で生徒保護者に周知する。 生徒相談係、担任の日常観察及び運営委員会報告等により、全職員が生徒の変化を掌握した上で適宜対処する。 いじめ防止に関する職員研修を行う。	A	心のアンケートは計画通り3回実施できた。知り得た情報を全職員で共有し、共通認識を持ち、個々の事例に対応することができた。 健康観察やいきいき相談等を通じて、生徒の変化の早期発見に努め全職員で個々の事例に対応できた。 心のアンケート結果を全職員が周知し、生徒一人ひとりの状況・心情に応じた対応ができた。外部の専門家を交えた、いじめ問題対策委員会を実施し職員の意識向上に努めた。スクールカウンセラーによるソーシャルスキル・トレーニングを全生徒が実施し自己理解を深めた。
職員研修	職員の資質の向上	職場での不祥事の根絶と職員の意識の高揚	分校職員の不祥事「0」を目指す。 職員朝会で適宜職員としての規範意識の高揚を図る。 毎学期、不祥事根絶のための校内研修を実施する。	毎日の職員朝会要項に不祥事0の継続日数を表示する。 職員朝会で適宜不祥事の事例を紹介し、注意を喚起する。	A	一昨年から不祥事「0」を継続している。 校内研修を7回実施した。朝会等で定期的に不祥事の注意喚起を行うことで、意識の高い集団になっている。

#### 4 学校関係者評価

##### 1 学校評価表（自己評価）の内容や評価について

###### (1) 学校教育目標について

- ・生徒への思いやり、取組等適切である。
- ・全日制・定時制・五木分校共に一体となった表現となり、整合性がとれている上、分校特有の内容が付加され、分校らしい優れたものとなっている。

- ・本校との一貫性、五木分校ならではの独自性もあって素晴らしい。
- ・学校教育目標の具現化のため、小規模校の特徴を活かした5項目の重点目標が設定されており、目標が達成できている。

## (2) 学校評価の内容や方法について

- ・学校評価委員になる方は、事前に説明を受け、学校行事等に参加して見なければ、適正な評価はできない。
- ・内容的に良く細かく活動されているのがわかった。
- ・細やかで適切な評価がされている。少人数という事で、生徒などの個人的意見の提示も参考になるのではないかと。
- ・内容や方法については適切と思う。ただ、職員の評価項目の中に類似するものがあるようなので、整理統廃合してはどうか。
- ・現行通りよい。
- ・教科別評価は、教職員個人の評価となるが、その評価の高さに驚いた。評価内容は適切である。

## (3) 学校評価の結果について

- ・生徒の進路指導に対する評価が高いのは特筆すべき点である。
- ・先生方、保護者、生徒の信頼感が結果に現れている。
- ・全職員で生徒の為に様々な取り組みを行われていることがよくわかる。今後もきめ細やかな取り組みを期待する。
- ・職員と保護者については順調であるが、生徒については、かなり低調なのが見受けられる。生徒の受け取り方が不十分である。
- ・すばらしいの一言。
- ・学校評価について、保護者の期待の高さを感じた。

## 2 教育活動その他の学校改善に向けた取組について

### (1) 学校経営について

- ・先生方と保護者が協力して行うのが望ましいと思うが、保護者全員が役員になったことで、良好な関係が築かれている。
- ・保護者と地域と学校の関係が密接である。
- ・いろんな行事に積極的に取り組み、特に保護者の活動がすばらしい。
- ・地域との協力関係は、学校経営に大切な要素である。また、対策に上がっているように体験入学を充実させる為にすべき事をもう少し具体化するべき。
- ・定員確保が最大の課題。管内中学校へアプローチが必要。保小中高の一貫校的取組を充実させる。地域に密着した取組みに成果がみられる。
- ・分校ニュースはわかりやすく、温かい。
- ・地域に根ざした秀麗会の活動もすばらしい。
- ・生徒13人の小規模校の特色を十分に生かした、個に応じた教育が浸透している学校経営である。

### (2) 学力向上について

- ・個別指導で、きめ細やかな指導が行われており、個人差が縮まれば底上げができると感じる。
- ・小規模校のメリット、デメリットが良くでている。教科担当の先生の負担感が大きいのではないかと感じる。
- ・個々の生徒に応じた取組をされている。
- ・生徒の学力に応じた工夫がされている。
- ・個人差がある学習意欲の向上は大変だと思う。一人一人の基礎学力の向上の為に、先生方の研修も頑張ってもらいたい。
- ・ステップアップとわかる授業の構築を中心目標に設定し、その成果は現れている。生徒の学校評価の中のステップアップの時間での積極性の低調さが気になる。
- ・個に応じた授業実践が行われている。中学校でもっと基礎学力を定着させておくべきだったと深く反省している。

### (3) キャリア教育について

- ・五木分校において、一番秀れている点であり、今後も引き続き熱心なご指導をお願いします。
- ・個々の生徒に応じた取組をされている。
- ・生徒に対して一生懸命進路指導を実施されているのがわかる。
- ・一人ひとりに対応した指導は、すばらしい。今後も生徒の声を聴いて、御指導よろしくお願

します。

- ・外部講師を招聘しての講話や体験学習は有効。職員・保護者における学校評価も高い。
- ・一体感が伝わります。
- ・全教職員で課外指導及び面接指導を行う成果が、進路指導に繋がっている。

(4) 生徒指導について

- ・基本的な生活習慣の確立は家庭の課題である。保護者との連携し、改善してほしい。
- ・親の教育も必要。
- ・基本的な生活習慣の確立は生徒にとって、高校生活の中でもっとも重要な部分である、記録提出できなかった一年生が、これからどう成長するか指導が楽しみ。
- ・少人数であるので、生徒一人ひとりの活動チェック把握もし易い。大きなトラブル・特別指導も無くよかった。部活動について、保護者の評価が低い。生徒の言葉遣い・服装についての評価が低い。

(5) 人権教育の推進について

- ・小規模校の利点である、一人ひとりに向き合った適切な指導がなされている。
- ・保小中高合同の運動会や文化祭は良い経験になっている。
- ・生徒一人ひとりの状況把握に努められ、適切に対応されている。
- ・様々な事情をかかえた生徒達の個々の心のケアは大変な事である。今後も全職員で取組んでほしい。
- ・交流のレパトリーを広げることによって、生徒はますます人権の大切さの理解度を深める。
- ・生徒一人ひとりの実態把握により、外部機関とも連携しながら、生徒の人権に配慮した指導・支援が行われている。

(6) いじめの防止等について

- ・アンケート結果を全職員が周知し、対応されている点は素晴らしい。
- ・生徒一人ひとりの状況把握に努められ、適切に対応されている。
- ・健康観察やいきいき相談等を通じて、生徒の変化の早期発見に努め、全職員で個々の事例に対応できる。いじめ防止活動が適切に実行されている。
- ・いじめの方法が多様化しているので、日頃から情報収集・把握に努めて、十分な注意を望みます。
- ・もっと高い評価を付けて良い。
- ・いきいき相談の取組みは良い。
- ・いじめ「0」が継続しているところが、素晴らしい。実態の変化に気づくようにしてほしい。

(7) 職員研修について

- ・自覚という面では、適切な活動であると思う。内面的ケアも一つの資質の向上となる。
- ・取組の成果は十分出ている。
- ・職員間の団結の強さを感じる。
- ・不祥事防止は、教職員の危機意識の継続が鍵です。

3 その他

- ・生徒の学力が課題だと思うので、本人に自覚をうながし、先生方の努力が良い結果をもたらす事を願っている。
- ・子どもも先生も常に見られているという意識が必要。
- ・いろんな事情をかかえた生徒達の家族との関わりは大変な事である。生徒の抱える背景には家族との関わりがあると考え、今以上に御家族と一緒に生徒を見守ってほしい。
- ・五木分校に救いを求めて入学した生徒もいると思う。分校にはそれを受け入れる「何か」がある。先生方も大変ですが、御指導のほど、よろしくお願いします。先生方の懸命な取組みに心から敬意を表します。
- ・日頃から分校ニュースを見て、学校経営がうまくいっているのはわかっていたが、学校評価を見て、少人数の強みで一人ひとりに焦点をあてた見事な指導がわかりました。
- ・小規模校の厳しさを、教職員全員で克服されている様子がよくわかりました。小規模校のよさを発信できる五木分校になってほしい。

5 総合評価

1 本年度の学校教育目標

アの目標は、本校綱領「礼節」「勤労」「進取」を基盤とした人吉高校としての目標（本校全日制

・定時制・分校共通)であり、適切であった。

イ及びウの目標は、五木分校の特性に応じた目標であり、分校全職員が共通認識を持って取り組むことで、地域に根ざし、小規模校ならではの生徒一人一人に応じた教育の実践を図ることができた。

## 2 本年度重点目標

教育スローガン「一人一人が輝く分校生！」を掲げ、生徒一人一人に応じた適切な指導を行い、教師が生徒を認め励ましながら一緒に取り組むことで、生徒が日々の教育活動で活躍する場面を作りだし、自己肯定感や自信に繋がる教育を実践することができた。

「1 基礎学力の充実」では、わかる授業の構築に努め、基礎学力向上のための学校設定科目「ステップアップ」を充実させ、課題等の工夫改善と生徒の家庭学習の習慣化を図った。また、定期考査前学習会の実施や個別指導の充実で、生徒一人ひとりへの丁寧な学習指導を充実させることができた。

「2 生徒指導の充実」では、保護者との協力の下、生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、落ち着いた学校生活に繋げることができた。毎月の月例集会講話等を通して、規範意識の向上と他を思いやる態度を育むことができた。

「3 進路指導の充実」では、キャリア教育の一環として、本年度もジョブカフェやハローワーク等の外部機関との連携により、アサーション講座やキャリアカウンセラーによる面接練習を導入し、生徒のコミュニケーション能力の向上を図ることができた。また、一昨年度に引き続き「体験学習」を充実させることにより、達成感や自己成就感を味合わせ、生きる力を育み、自己肯定感に繋げることができたと思われる。個別進路対策では、全職員による指導体制を充実させることができた。

「4 多様な生徒への対応」では、毎朝の健康観察で生徒の心身の状態を把握すると共に、今年度より「いきいき相談（生徒と特別支援コーディネーターとの面談）」を実施し、生徒一人ひとりの悩み等を訊くことができ、個々に必要な対応ができた。また、専門機関の協力を得て、生徒理解研修や支援会議を毎学期開催して適切な助言をいただき、指導に役立てることができた。

「5 地域に根ざした特色ある取組の推進」では、小中との連携、地域との連携、管内中学校との協力体制強化を図った。五木東小学校、五木中学校との合同事業を実施し、五木分校ならではの取組を行うことで、異年齢交流や大人数での集団活動を体験させることができた。特に、五木村保・小・中・高合同大運動会では、最上級生としての役割を果たし、自覚、責任感、リーダーシップに繋がる主体的な活動を行うことができた。また、五木村駅伝大会や各種祭等の行事への参加、地域ボランティア活動、あいさつ運動等では、生徒会が中心となって、五木村に関わり地域に貢献できる行事を推進することができた。一昨年度から毎月担当職員が管内中学校への訪問を行い、五木分校の広報を行うと共に、相互理解と良好な協力関係を保つことができています。

## 3 自己評価総括表

全体的にみて、掲げた目標を概ね達成することができた。いじめ、問題行動、不祥事は、0を維持できた。今後も継続させたい。数値目標として実施回数を掲げた項目は全て実施できた。また、数値目標として生徒の達成率を掲げた項目でもほぼ目標値に近い成果を上げることができた。

## 6 次年度への課題・改善方策

### (1) 「入学生徒数の増加」

<改善方策>

- ・学習指導の充実と進路指導の徹底
- ・五木村内の保育所、小学校、中学校との連携強化と合同行事の充実
- ・広報活動（ホームページ、分校ニュース等）の充実
- ・管内中学校との協力関係の強化（中学校訪問による情報交換）
- ・体験入学・学校説明会の充実

### (2) 「基礎学力の充実」

<改善方策>

- ・授業の充実（個に応じた指導の徹底、興味・関心、意欲を引き出す授業の実践）
- ・学校設定科目「ステップアップ」の充実（上位の段の設定、個別指導の徹底）
- ・学習課題の工夫と改善（個の進路希望に応じた学習指導）

### (3) 「キャリア教育の充実」

<改善方策>

- ・各学年の応じたキャリア教育の実践（ライフプランニング授業・インターンシップ等の充実）
- ・「体験学習」の充実（主体性、達成感・自己成就感、自己肯定感の醸成）
- ・個に応じた進路指導の充実（個別面談・個別指導の充実、自己表現力の育成）